

人ごとに其の宝を有するに若かず

① 宋人に玉を得し者有り。② 諸を司城子罕に献ず。
手に入れたが いた これ 差し上げた

③ 子罕受けず。
は 受け取らなかつた

④ 玉を献ずる者曰はく、「以つて玉人に示すに、
差し上げたが 言うことには この玉 を 玉細工職人 見せると

玉人 玉細工職人 は した 玉人 以つて宝と為す。⑤ 故に敢へて之を献ず。」と。
《以為》おもへらく……と思う。 だから どうしても これ さしあげたい

⑥ 子罕曰はく、「我は貪らざるを以つて宝と為し、
が 言うことには 私 際限なく欲しがらない こと ざる して
【対象】

爾は玉を以つて宝と為す。
あなた する

⑦ 若し我に与ふれば、皆宝を喪ふなり。
もし 私 与えれ どちらも 失う のだ

⑧ 人ごとに其の宝を有するに若かず。」と。
それぞれ それぞれ 持つている こと 及ぶものはない(一番よい)

⑨ 故に宋国の長者曰はく、「子罕は宝無きに非ざるなり。
だから 有徳者 言うことには が 無いということではないのだ

⑩ 宝とする所の者異なるなり。
もの が 違う のである

今仮に

きびだんご

⑪ 今 百金と搏黍とを以つて、以つて 兒子に示さば、
【仮定】

子ども

きびだんご 取る だろう

兒子は必ず搏黍を取らん。

つまらぬ人間 示すとすると

⑫ 和氏の璧と百金とを以つて、以つて 鄙人に 示さば、

つまらぬ人間

取る だろう

鄙人は必ず百金を取らん。

真実を語る言葉

示すとすると

⑬ 和氏の璧と道德の至言とを以つて、以つて 賢者に示さば、

真実を語る言葉

取る だろう

賢者は必ず至言を取らん。

そ

が

ますます 綿密 であれ

そ

選ぶ

ものは

ますます 綿密 である

⑭ 其の 知 弥 精 なれば、其の 取る や 弥 精 なり。

本質を見抜く能力

が

そ

ますます 雑

であれ

その 選ぶ

ものは

ますます 雑

である

⑮ 其の 知 弥 粗 なれば、其の 取る や 弥 粗 なり。

が

もの

は

最高のものであつた

⑯ 子罕の宝とする所の 者 至 り。」と。

矣……置き字・断定強調

どうして子罕の宝とするものは「最高」なのか？

何も持たない以上の「持たない」ことはあり得ないから。